

2025. 7 月 女性チャレンジ応援拠点だより

～チャレンジロードの歩き方～



コラム

「チャレンジ3年未満のパノラマ」

今年もはや7月、いつもながら、あっという間に月日が過ぎていきます。大阪・関西万博も残り3ヶ月、大屋根リング保存の行方が気になるところです。気になるといえば夏の長さです。近畿は先月6月9日に梅雨入りし、6月中の27日に明けました。その間も猛暑が続いた週もあって、6月から夏バテを感じるほどでした。2年前から暑くて長い夏、体調管理の優先度を高めないと、仕事に影響します。休養も仕事のうちですね。

さて『チャレンジロードの歩き方』、3回目の今日は「チャレンジ3年未満のパノラマ」と題してお届けします。前回の「未来を構造化する」に書いたとおり、初期3年は少々タフさが求められます。人によっては激動の3年になります。チャレンジした活動や事業について、自分が思うほど他人は想っていない、ということも痛感することになるでしょう。でも、そこで意気消沈せず発奮して挑めば、“あの3年があったから、今がある…”と未来から振り返ることでしょう。自身の奮闘ぶりを愛おしく感じるはずです。その大事な初期3年の奮闘の中でも特徴的な局面を2つ挙げて、考えてみます。

一つは、「時間投資」。簡単にいえば将来のリターンのために現在の時間を使うことですが、チャレンジを始めて3年は結果的にそういう期間になるということです。新しいチャレンジには、「理想と現実」の〈現実〉に多くの人が直面します。“こんなはずじゃなかった…”と思い知りますが、その気づきが糧になるのです、糧にするのです。

〈現実〉の中には自身の意識、知識、技能の「未熟さ」もあります。また、あなたのチャレンジテーマを許容する層が、そもそも限られていて、でも自身ではその認識がとぼしいため、理想と現実のギャップをより強く感じる、ということもあります。

「本当に何もわかっていなかった…と愕然としたものです」。チャレンジ歴13年になるAさんのお話です。自分のやろうと

することがこんなに通じないなんて、人生ではじめて孤独感を味わったといいます。なんとか伝えようと広報物をいろいろと作ろうとするけど、パソコンに慣れていなくて、一日中画面に向き合った時もあった。ふと我にかえり、“わたし、何をやってるんだろう…”と涙がこぼれた。「でも過ぎてみれば、あれがいいトレーニングになりました。そのうち2年ぐらい経った時に知人をとおしてチャンスが舞い込んだんです」。

もう一つは、「アテにしない」。ユニークな活動を始めた人によく起こるパターンがあります。活動に関心を持った人が「いつでも協力するよ」と仲間に入り、でもしだいに相手は不満を持つようになり、“えっ、一緒に頑張ってくれるはずじゃなかった…”と自分も不満を抱えるようになる。ひと言でいえば、アテがはずれたわけです。

人をアテにする。それは、「甘えの墮落的形態。信頼せずして期待し、あてはずれが起きると、〈逆うらみ〉する」と『甘えの構造』の著者、土居健郎の指摘はなかなか厳しい。一方、安易に協力の手をあげる人についても、「軽々しく承諾する者はめったに信用できない」と古代の哲人「老子」の教えです。

人をアテにするのでなく、人を頼る。おたがいに信頼関係があって頼ることができます。ということは、それまでに良好なコミュニケーションが実現できているということ。そうありたいものです。

さて、今回はここまでとして、チャレンジ3年未満は混沌とするものですが、それも「時間投資」と捉えると生産的に感じられます。なかなかそう感じられないという方は、どうぞ「女性チャレンジ応援拠点」をご利用ください。たくさんの「傾向と対策」にあたってきたスタッフが後押しいたします。みなさまのご利用をお待ちしております。

女性チャレンジ応援拠点

場所：大阪市天王寺区上汐 5-6-25 クレオ大阪中央 4 階
メール：women-kyoten@danjo.osaka.jp

運営：大阪市立男女共同参画センター中央館
電話 06-6770-7200 FAX 06-6770-7705

★ 開室日

※ 祝日、祝休日の翌日の場合は休室

水	木	金	土
18:00 ～ 20:00	13:00 ～ 15:00	10:30 ～ 12:30	13:00 ～ 15:00

★ 開室時間内は自由に入退室いただけます。
お気軽にお立ち寄りください。

